

て長瀬
あきさこ
今宮の心中

瓦町橋渡際の段

相生太夫

再展示

(二〇二〇年二月から三月に古典芸能研究センターで行った展示をそのまま再展示します。)

床本 太夫が見る本

— 四世竹本相生太夫旧蔵資料を中心に —

五-9-3
185

四世竹本相生太夫旧蔵床本 表紙

ひても、嘘でものれ
おれでものれ、おれ
橋で漕ぎかたて
天満川橋の上まで
売る声えんを困窮

四世竹本相生太夫旧蔵床本 1丁ウ2丁オ

文楽の太夫が舞台で浄瑠璃を語るときに使う本を床本ゆかほんといいますが。床本は、大きな字で一頁に五行で本文が書かれており、本文の横には太夫が語るのに必要な「譜」が書き込まれています。床本が必ず太夫の前に置かれるようになったのがいつ頃からは、はっきりしていませんが、神戸女子大学古典芸能研究センター所蔵の志水文庫にある浄瑠璃『つれづれ草』(延宝九年上演)の写本は、その形式から、現存する最古の床本と考えられています。センターは二〇一八年十二月に四世竹本相生太夫旧蔵資料を受贈しました。その資料の大半は、近現代の文楽の太夫達が実際に使っていた床本です。二〇一九年度最後の展示では、最古の床本・江戸時代の床本・近現代の床本と、「太夫が見る本」である「床本」に焦点を当てつつ、浄瑠璃関連の様々な本を展示します。

場所 神戸女子大学古典芸能研究センター展示室
期間 二〇二〇年八月十七日(月)〜九月二十五日(金)
時間 十時〜十七時
土・日・祝日休室

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、ご協力をお願いします

・風邪のような症状がある方、発熱のある方、感染の疑いがある人が身近におられる方は入室できません。

・マスクのない方は入室できません。

・混雑を避けるため入室を制限させていただく場合があります。

・今後の状況により、やむを得ず閉室とする場合がございます。最新情報はホームページでお知らせいたしますが、念のため事前にお問い合わせください(078)2311061)。

あいつくあいつく
花のえんをいづも
諸名あの中
さくし難波の舟遊
袂に川風と

四世竹本相生太夫旧蔵床本 1丁オ